

都美セクション グループ展 2025

「都美セクション グループ展」は、新しい発想によるアートの作り手の支援を目的として、東京都美術館の展示空間だからこそ可能となる表現に挑むグループを毎年募り、その企画を実施するものです。

「都美セクション グループ展 2025」では、さまざまな地域、ジャンルのグループによる企画のなかから選ばれた3グループが展覧会を実施します。絵画、写真、映像、インスタレーションなど、各グループが当館の3つのギャラリー空間に展開する独自の展示をお楽しみください。

2025年6月10日(火) ——— 7月2日(水)

観覧無料

東京都美術館 ギャラリー A、B、C

開室時間：9:30～17:30（入室は閉室の30分前まで）

休室日：2025年6月16日(日)

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館、各展覧会の実施グループ

●開催内容は都合により変更する場合がございます。最新情報は当館ウェブサイトをご確認ください。

関連イベント：

各イベントの内容は変更する場合がございます。最新情報や参加方法等の詳細は各グループのウェブサイトをご覧ください。

GALLERY A ケ 藝に触れていく

6/14(土)、6/15(日)
6/21(土)、6/22(日) 各日
6/28(土)、6/29(日) 14:00 — 16:00

「つくえの対話」

「ケカラハ」が専門家を招いておこなう継続的な対話または実践の場。毎回それぞれ異なるゲストとテーマを設定し、会場内のミーティングテーブル「つくえ」を囲むトークイベント＋αを実施する。また、その内容はアーカイブとして記録される。各イベント詳細は web サイトをご確認ください。

会場：東京都美術館 ギャラリーA

定員：15名程度

参加費：無料

事前申込不要、当日先着受付順

問合せ先：qekaraha@gmail.com

GALLERY B 感性が自然に擬態する

6/14(土)
15:00 — 16:30

「感性が自然に擬態する」
トークイベント

人類学者の石倉敏明氏をゲストに迎え、展示作品を起点に自然と芸術の関係性を探ります。

会場：東京都美術館 スタジオ

定員：50名程度

参加費：無料

事前申込不要、当日先着受付順

問合せ先：
big.nature.paintings@gmail.com

GALLERY C パブリック・ファミリー

6/22(日)
14:00 — 16:00

「家庭はいかにして生まれたのか(仮)」

「[家庭]の誕生」の著者である社会学者・本多真隆氏をゲストに迎えたトークイベントを開催する。2部構成を予定しており、第1部で本多氏による日本の近代家族制度の変遷についてのレクチャーを実施。第2部では本展キュレーター及び参加作家と本多氏のクロストークを行う。

会場：東京都美術館 スタジオ

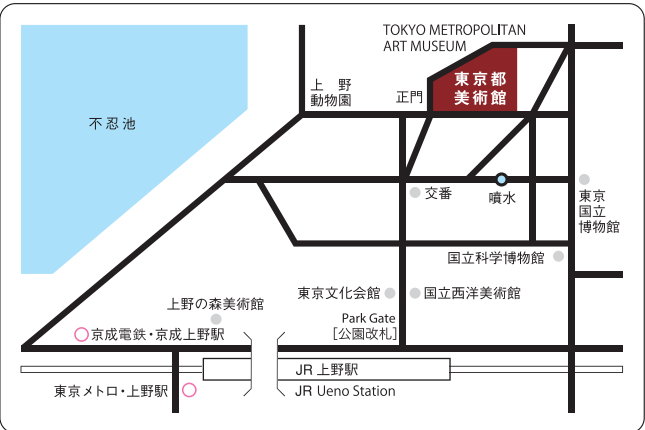
定員：50名

参加費：無料

事前申込制。

右記の二次元コードからお申し込みください。

問合せ先：
publicfamilyproject2025@gmail.com



〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36
Tel: 03-3823-6921
https://www.tobikan.jp



交通のご案内

- JR 上野駅「公園改札」より徒歩7分
- 東京メロ 銀座線・日比谷線 上野駅「7番出口」より徒歩10分
- 京成電鉄 京成上野駅より徒歩10分
- * 駐車場はございませんので、車での来場はご遠慮ください。

都美セクショングループ展 2025
Group Show of Contemporary Artists 2025

GALLERY A
ケカラハ
Qekaraha

Touching Qe

藝に触れていく

小瀬村真美 (静物画) 群馬県桐生市元科亭電機 2024年



GALLERY B

ビッグ・ネイチャー・ペインティングス
BIG NATURE PAINTINGS

感性が自然に擬態する

Creating as the Mimicry of Nature

2025年6月10日(火) ——— 7月2日(水)



観覧無料

安田明音 (Wanders) 2024年 写真・メヒシロアヤノ



GALLERY C

パブリック・ファミリー展実行委員会
Public Family Project Team

金川晋吾 (明るくいい部屋) 2024年 (参考作品)

パブリック・ファミリー
Public Family

ケ 褻に触れていく Touching Qe

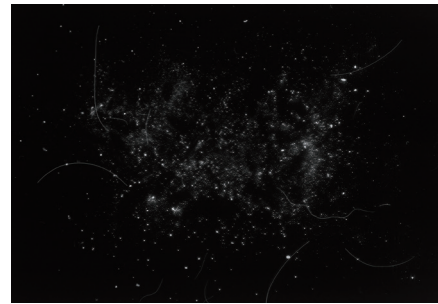
ケカラハ
Qekaraha

アートにおける日本的方法論を模索する展覧会、研究会などの実践を通じて、伝統的な秩序や習慣、価値判断からこぼれ落ちたものを考察し、日本人の感覚や表現、記録や記憶のあり方を提示する。さらに、本展は継続するプロジェクトや研究的アプローチとして、展示作品のみならず、会場でトークイベントやワークショップ、現場制作を実施し、鑑賞者を含めた思考や活動のプロセスをどうアーカイヴするかについても研究を重ね、記録からこぼれ落ちたものを記憶し、伝えていく可能性について、創造的に考察・実践していく。

東洋的もしくは日本的方法論は可能か？を模索するプロジェクトとしてアーティスト同士の対話から2023年に始動。「日本の秩序や習慣、そして、そこからこぼれ落ちたもの」を丁寧に再考していくトークや展示等を企画。アーティストだけではなく、広範囲の分野にわたる専門家と共にそれぞれの分野の狭域な視点や個人の話を共有していく場とする。また、その思考や活動のプロセスをどうアーカイヴするか、もまたプロジェクトの内容に含まれる。

ウェブサイト：
<https://qekaraha.com>

助成：
公益財団法人 朝日新聞文化財団
公益財団法人 花王 芸術・科学財団
NOMURA 野村財団



岩井優〈道德の星天〉2024年（参考作品）



松尾孝之〈考現学 記録調査 歪んだ部屋〉2025年



宇多村英恵〈Fate of Love〉2024年

感性が自然に擬態する Creating as the Mimicry of Nature

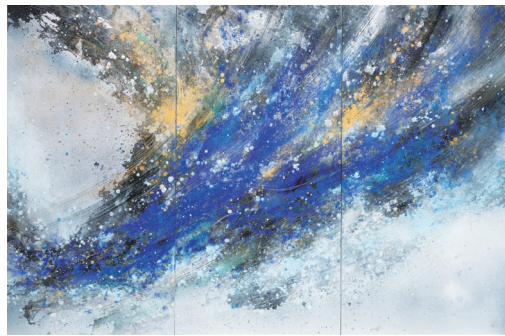
ビッグ・ネイチャー・ペインティングス
BIG NATURE PAINTINGS

私たちは自然を描くとき、ただそれを写し取るのではなく、無意識のうちに自然と同化しようとしているのかもしれない。生き物が環境に適応し、擬態するように、私たちの感性もまた、自然の色や形、光や影の中に溶け込もうとする。しかし、その試みが強ければ強いほど、私たちは「自然そのもの」にはなりえないことを自覚させられる。そして、この葛藤のなかで作品は生まれ落ちる。擬態することではか捉えられない自然の姿を、本展を通じて探っていききたい。

佐藤健太郎、土田翔、安田萌音、柏倉風馬（コーディネーター）によるアートグループ。3人のアーティストは、自然へと迫ろうとする感覚を共有して持ちつつも、それぞれ異なる視点で制作に向き合っている。「自然を描く」とは一体何なのか。単なる再現ではなく、どのように捉え、表現するのか。その解釈を探ることが、本グループの試みの一つである。互いの視点を擦り合わせながら、「自然を描く」ことの意味を問い直し、展覧会を通じて表現の可能性を模索していく。

ウェブサイト：
www.big-nature.com

助成：
公益財団法人 朝日新聞文化財団
一般財団法人 **神山財団**



佐藤健太郎〈風ノ形象XIII〉2024年（参考作品）



安田萌音〈Vestiges —wall—〉2020年 写真：竹久直樹



土田翔〈NO-COUNT〉2021年

パブリック・ファミリー Public Family

パブリック・ファミリー展実行委員会
Public Family Project Team

選べなくて、逃れがたい。似ているけど、よく知らない。「家族」は、簡単には断ち切りがたい存在として、私たちのすぐ近くに存在している。本展は、そんな私的でありながら公的である「家族」について見つめ直す試みである。5人のアーティストの作品実践を通じて、訪れた人それぞれが、周りにいる「家族」の存在や、「家族」をめぐる自分自身の価値観に気づき、思いをめぐらせる機会を創出する。

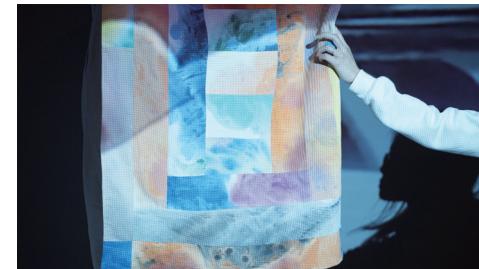
本展に参加する5人のアーティストは、それぞれの立場から家族や親しい間柄の人たちとの「公」と「私」のあいだにある関係性を手探りし作品化している。「家族」という観念を個々人のプライベートな空間から美術館という公共空間へとつなぎ、「家族」は社会の制度でありながら個人の内面と分かちがたく絡み合っていることを鑑賞者に伝え、家族をめぐる制度や価値観について、共に考えていくことを促す機会を作る為にこの団体を作った。

ウェブサイト：
<https://sites.google.com/view/public-family-exhibition/home>

助成：
公益財団法人 朝日新聞文化財団
公益財団法人 三菱UFJ信託地域文化財団



さめしまことえ〈にぎい、こん!〉2021年 写真：リアライズ



坂本夏海〈Dismantling Motherhood〉2024年（参考作品）



工藤春香〈あなたの見ている風景を私は見ることはできない。私の見ている風景をあなたは見ることはできない。〉2022年（参考作品）写真：森田兼次



佐々瞬〈追廻住宅記録／最後の家（仮）〉2021年（参考作品）